

# 法 説 辻

法話分三會教師宗洞曹県手岩

## 苦あればこそ楽しみあり

一戸町・広全寺住職 佐藤一成

私達の日常生活では、いやなこと・辛いこと・悲しいことが、たくさんあります。どこか安楽に過ごせる、理想の世界はないものかと思ったりします。

たとえば山登りで、険しい道を登り切ると、頂上は大変すばらしい世界が広がると思うようなものです。

しかし、ふと足を止めて周囲を見渡すと、今歩いている険しい山道が、すでに花の咲き乱れている美しい世界であることに気づくかも知れません。

仏教では、私たちが、今、生きていくことがすでに、仏さまの慈悲に守られていると考えます。あとは私たちが、そのことに気づくかどうかだけです。

仏さまをたどれば、空気のような存在です。生きるために空気が少しも欠かせません。しかしその存在を普段は忘れていきます。

この世にあるものは、すべて天地の理法・道理に貫かれていきます。生きたり死んだりすることもみんなそうです。

道元禪師さまは「生死は仏の御いのちなり」と、いわれました。素晴らしいことの現実に気づかず苦悩をしているのは、人間の心に宿る自己中心の欲、エゴの心を制しコントロールして、現実の真実を、ありのままに受け取ることが大切です。そこに、苦のなかに楽しみを見いだし、悲しみの中に喜びを発見する道があり

ます。

この世に悲しみ苦しみがあから、喜び楽しみもあるわけです。悲しみ苦しみは、人間にとって誠に有り難いものです。

もし毎日何一つ心配がなかったとしたら、感謝や感激を味わうことが出来ません。

私たちは心を落ち着け、心理を見極める力を養い、正しい道を歩んでいきたいものです。



曹洞宗岩手県宗務所  
**テレホン法話**  
 ☎ 0198-62-1121

ほとけに  
 出会う

心に残る  
 法話を  
 お聞き  
 下さい